



学校だより

ひびき

令和4年4月7日

4月号

昭和54年3月3日制定

横浜市立獅子ヶ谷小学校

今年度もよろしくお願ひいたします

学校長 大塩 啓介

いよいよ令和4年度がスタートしました。一昨年度、昨年度と変わらず、コロナ禍の中でのスタートとなります。今年に入ってから急激に増えたオミクロン株による感染は、ピークは過ぎたようですが、減少幅も少なく、第7波と思われる兆候も見られています。学校の教育活動も、以前のように戻るにはまだまだ時間がかかりそうです。

前年度末にかけて、校庭整備を行いました。小雨が降る中ではございましたが、卒業生が友だちや家族とともに校庭で写真撮影を行っていました。それから数日間修了式までの間、在校生がその校庭で、元気に遊ぶ姿が見られました。現在、高学年と低学年で中休みと昼休みの時間を分けているため、広々と校庭を走り回っています。また、大きな怪我もこの2年間で大きく減りました。児童にとって、安心して遊ぶことができます。

児童にとって、学校は安心できる場でなければなりません。そして、居心地のよい場所である必要があります。言葉で言うことは簡単ですが、実際に実現していくためには、学校として努力していく必要があります。

まず、学習です。安心して学習できる場を作るために、これまでも申し上げている「個別最適な学び」の場を作っていきます。これまでも進めておりましたが、児童一人ひとりの学習状況を踏まえ、分かりやすい授業のあり方、適切な学びの場・方法の研究を更に進め、「一人も取り残さない」学習に努めてまいります。児童が「分かった」「できた」という場面を一つでも多く増やし、学習意欲・学力の向上につなげていきます。

また、学校生活において安心できるよう、教職員がよく児童の話に耳を傾け、児童の個性や状況を少しでも多く把握するなど、児童理解に努めます。児童間のトラブルを未然に防いだり、いじめの防止につなげたりしていきます。そして、コロナ禍の中で難しい面もありますが、教職員と保護者の皆様とのコミュニケーションを少しでも増やし、お互いの情報や考え方の共有を図れればと思います。

こうしたことを実効性のあるものにしていくために、ICTを活用したり、教職員が元気に児童に向き合うことができるよう、学校における働き方の見直しも進めたりしていきます。既に40分授業を取り入れ、一日の日課表を大幅に変えているところですが、それ以外の業務一つ一つの進め方も見直していきます。

今年度も、児童のために教職員一丸となって努力してまいります。保護者の皆様方に置かれましては、児童の学校生活の充実のために、ご理解・ご協力をいただきたく、お願ひ申し上げます。